

# 風土記の丘の花だより<sup>161</sup>

## 今、そしてこれから見られる植物(2022年11月19日)

晩秋という言い方がぴったりな季節になりました。先日は、トイレの上のイチヨウの木の下が、落ち葉で黄色の絨毯(じゅうたん)のようになっていました。



今年もコウテイダリアの花が咲きました。何か、年々大きくなっているような気がします。昨年は11月17日に開花を確認していますが、今年もほぼ同じです。16号でも紹介していますが、もう、一昨年のことですね。いや、3年前かな?とにかくそのころの写真と比べると、確かに成長しています。年々、植えられている方が増えているのか、よく見かけるようになってきました。



ゴンズイの実がきれいに色づいています。どこにでもたくさん生えるという木ではありませんが、実がなるとよく目に付くので、「こんな所にも生えていたのか」と思います。ゴンズイという魚もいますが、どちらも「値打ちがなく、役に立たないもの」という意味だそうです。これは、前山A地区で撮った写真ですが、ここに限らず、散歩をしているとあちらこちらでよく目に付きます。



谷山家の南でハマヒサカキの雌花が咲いて、辺りに芳香が漂っています。雄花は大池のベンチの手前で咲いています。よく観察すると、めしべやおしべの様子が違うことに気づきます。とても小さな花ですが、落ちている花もたくさんありますから、手にとってじっくり観察してみてください。



安藤塚のエノキに付いたヤドリギに丸い実がたくさんなっています。でも、このエノキはずいぶん弱っていて枯れそうです。エノキが枯れるとヤドリギも枯れます。木の大きさの割にたくさん付きすぎたのでしょうか。修復古墳のポプラにも多く付きすぎたのか、この夏に1本枯れてしまいました。何事も程ほどが大切ですね。

松下